

# 時句集

# 流

坂上香菜

sakaue  
kana

デジタルの

時流に乗らず

籠枕

便利さに慣れ、合理性に慣れた生活を送っている現代人の日々流されず「デジタルの時流に乗らず」と詠む作者。特にサイエンスの世界に身を置く作者が大切に手離せないのは、時代錯誤とも言える「籠枕」である。

.....塩路隆子



大観の富士と思へり大旦

杉の名は太郎次郎や初詣

臟  
梅  
や  
木  
目  
自  
慢  
の  
町  
屋  
建

恋  
猫  
に  
夕  
顔  
の  
章  
閉  
ぢ  
に  
け  
り

漏刻の遺構に点る鼓草

遠流島に古代衣装の春祭

チヤイム無視四重ロツクの風邪籠

表札はローマ字の門冬薔薇

飛ぶ鳥の一拍休止  
冴え返る

職退きて調子良き  
胃や水温む

相  
乗  
り  
の  
赤  
き  
自  
転  
車  
春  
の  
雨

ど  
ん  
よ  
く  
に  
蜜  
吸  
ふ  
鶉  
や  
紅  
椿

親子草天の香具山越えにけり

凍道をゆるりと進むタイヤ音

鯛釣りの渡舟場静か日脚伸ぶ

豆撒や清潔ぐせの世となりて

暖  
か  
や  
旅  
を  
図  
れ  
る  
世  
界  
地  
図

補  
陀  
落  
へ  
万  
体  
の  
雛  
控  
へ  
を  
り

霧島高原

無音界なりあかときの初山河

茶どころに焼酎館冬日燦

冬麗や  
昼月上げし  
日向灘

凧揚ぐる  
異人家族や  
城下町

立つ濤に  
乗れぬ  
サーフ  
アー  
春浅し

燈に  
沿ふ  
エス  
カレ  
ー  
ター  
梅  
ふ  
ふ  
む

雪の森はや恋鳴きの四十雀

川蒼き孀恋村や雪ごもり

万葉の館のぞきし恋の猫

エリートらしき黒人達や古都の春

貝寄風や万葉の歌遺る浦

荃立ちのラインダンスや夕日射し

与論島六句

ウインドサーフィン初日に向ひ突つ走る

島一番の高き丘へと恵方道

眠  
薬  
の  
代  
り  
に  
読  
書  
年  
の  
宿

蒼  
海  
の  
珊  
瑚  
環  
礁  
冬  
怒  
濤

黒糖酒を振舞ふ島や花甘庶

美<sup>みや</sup>童<sup>らび</sup>の  
与論  
工イサ  
ー  
冬日  
燦

しづる雪に頭上注意の馬籠宿

万葉の恋の蒲生野雪化粧

大寒や通天閣の灯り透き

「北方領土返還」の札雪達磨

日<sup>に</sup>経<sup>つ</sup>新<sup>け</sup>聞<sup>い</sup>を持つがフアツションマスクして

二カラットの雨滴かがやき草萌ゆる

熊蟬に視線気づかれ逃しけり

デジタルの時流に乗らず籠枕

美  
し  
き  
表  
紙  
を  
繰  
り  
て  
半  
夏  
生

熟  
年  
の  
T  
シ  
ャ  
ツ  
の  
文  
字  
F  
U  
T  
U  
R  
E  
と

助手席は愛犬の座や長閑なる

教育に筈ちりとり新社員

上  
皇  
の  
島  
に  
昼  
月  
桐  
の  
花

ど  
の  
音  
が  
ど  
の  
揚  
花  
火  
河  
内  
の  
夜

断腸花平家落人棲みし溪

街灯に吾が影二つ冷まじき

真  
白  
な  
け  
む  
り  
垂  
直  
霜  
の  
朝





©2006 Kana Sakaue  
Printed in Japan

句集 じりゅう 時流

平成18年8月4日 初版発行

\*

著者 さかうえ かな 坂上香菜  
発行者 大山基利  
発行所 株式会社文學の森